

第4回検査標章の視認性向上検討会 議事概要

1. 日 時：平成27年11月12日（木）10：00～11：15
2. 場 所：中央合同庁舎3号館8階国際会議室
3. 出席者：田宮委員、青木委員、阿山委員、石井委員（安藤委員代理）、榎本委員、志村委員（橋本委員代理）、矢口委員

4. 議事（概要）

資料について事務局から説明を行い、各委員から実験結果について質疑等が行われた。

（委員等からの主な質疑等）

- 背景色の判別距離はバラツキがあったがその要因は何か？
- 色の濃度の選定は、濃くすると月数字が見えにくくなり薄くすると色の判別がしにくくなる。濃度はどの様にして選定したか。
- 現在の標章との比較では、標章の大きさや数字の配置を変えることでかなりよくなっている。ただ現場からの意見では、背景色により識別する方法が見やすいという意見があった。費用がかかるとのことだが、無車検車が減ることで費用対効果が得られるのでは無いか。

（質疑に対する説明）

- 色の判別距離の長かったのは水色とピンクであった。被験者に意見を聞いたところ、緑や橙は白と見分けづらいとのことであった。人工的な色であるピンクと比べると、緑や橙は自然色であるため識別しにくかったと考えられる。被験者によっては近づいても判断できない方もいた。個人差が大きいため色により識別する方法は難しいのではないか。
- 色の濃度の選定は、予備実験を実施して色の識別、月数字の見え方を総合的に検討した上で選定した。
- 背景色により識別するために必要な6.6億円の効果については、直接的には判読距離が20cm長くなるということ。20cm見え方が良くなった結果、どの程度無車検車が減るかの問題である。